

| 授業科目名<br>科目ナンバー           | 授業担当者(担当)<br>氏名 | 区分 | 単位 | 年間授業<br>時間 | 受講<br>学年 | 開講年次 |
|---------------------------|-----------------|----|----|------------|----------|------|
| コンチェルト実習 A I<br>1-A-1-10  | 田部 京子           | 必修 | 1  | 30時間       | 1/2      | 1/2  |
| コンチェルト実習 A II<br>2-A-1-11 | 銅銀 久弥           |    |    |            |          |      |
| コンチェルト実習 B I<br>1-B-1-12  | 川久保 賜紀          |    |    |            |          |      |
| コンチェルト実習 B II<br>2-B-1-13 | 近松 博郎           |    |    |            |          |      |
|                           | 山本 貴志           |    |    |            |          |      |
|                           | 齋藤 友香理          |    |    |            |          |      |
|                           | 中田 延亮           |    |    |            |          |      |

**【授業の概要】**

オーケストラとの協演を前提に「コンチェルト独奏者」としての実習および「コンチェルトに関する総合的、実践的な研究」を行う。

**【到達目標】**

オーケストラとのアンサンブル技術の獲得、また指揮者やコンサートマスターとのコンタクト方法を修得することができるようになる。

**【履修方法】**

- 「実習の場＝授業」は、大学院生の以下の参加形態によって設定される。  
すなわち、(a)第1期の公開授業、(b)コンチェルト独奏者選抜オーディション、(c)第2期の演奏会において  
①(a)(c)の「独奏者として演奏」する。(各22.5時間)  
②(a)(c)の独奏者として演奏しない学生のうち、オーケストラに「tutti 奏者」あるいは「鍵盤楽器奏者」として出演する。(各22.5時間)  
③(b)で独奏者のオーケストラ伴奏(ピアノ)を担当する。(15時間)  
④上記以外の学生は(a)(c)の「リハーサル等を受講(実習)」する。(各22.5時間)
- それぞれの参加の内容と受講時間(トータルとして30時間以上)によって「1単位」が認定される。
- 独奏者のソロパートの指導は専攻実技担当教員が中心として行い、オーケストラとの実習の場面においては、指揮者を主たる指導者とする。
- コンチェルト実習A」と「コンチェルト実習B」は、専攻する楽器によって科目名の区別がなされる。  
◇弦楽器の実習は[A]      ◇ピアノの実習は[B]

**【授業計画】**

- ◆第1期 2026-5/12～5/16 (5/16 公開授業 会場:富山市民芸術創造センター リハーサル室)  
指揮/齋藤 友香理  
曲目/モーツァルト:ピアノ協奏曲 第20番 二短調 K.466  
モーツァルト:歌劇「魔笛」序曲  
ロッシーニ:歌劇「泥棒かささぎ」序曲  
ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調「皇帝」作品73より 第1楽章

- ◆第2期 コンチェルト独奏者選抜オーディション (2026-9/9 210室)

- ◆第2期 2026-10/13～10/17 (10/17 協奏曲のひとつ 会場:富山県民会館ホール)  
指揮/中田 延亮  
曲目/コンチェルト独奏者選抜オーディションを経て研究科委員会にて決定した曲目

※具体的な授業プログラムおよび日程等、また、受講上の詳細については、その都度掲示等により連絡するので注意のこと。

**【履修資格／履修に必要な予備知識や技能】**

[A I II] 弦楽器1・2年次生

[B I II] ピアノ1・2年次生

再履修:可。ただし、第1期にソリストとして出演することはできない。

**【授業の形式】**

実習、聴講 等

**【成績評価の要点】**

- ① 独奏者として出演する学生 : 演奏発表および授業内での研究成果の発表 60%、受講姿勢 40%
- ② オーケストラ奏者として出演する学生 : 演奏発表および授業内での研究成果の発表 60%、受講姿勢 40%
- ③ ピアノで独奏者の伴奏を担当する学生 : 演奏発表および授業内での研究成果の発表 60%、受講姿勢 40%
- ④ 聴講する学生 : 受講姿勢 100%

成績は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、「合格」又は「不合格」の表記とする。

**【課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法】**

課題に対しての到達度と成果について、担当教員のコメントを基に研究を進める。

**【事前・事後学習、必要時間】**

独奏者として出演する学生は、指揮者、オーケストラと共演することを想定したソロパートの練習。

オーケストラに出演する学生は、独奏者とのアンサンブル、指揮者の指揮を想定した練習。

ピアノで独奏者の伴奏を担当する学生は、独奏者とのアンサンブル、オーケストラの演奏を想定した練習。

聴講する学生は、独奏者として演奏することを想定した総合的な学習、練習。

コンチェルト実習後は、記録音源を聴き復習すること。

学生個々が、事前、事後学習に必要な十分な時間を設定する。

**【教材】**

第1期、第2期演奏曲目の総譜およびオーケストラパート譜は事務室にて配付する。

それ以外の楽譜は各自用意すること。

**【授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合】**

授業時間前後。事前に担当教員へアポイントを取ること。